

令和 3 年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書
(令和 2 年度対象)

令和 3 年 1 1 月

人吉市教育委員会

目 次

＜ はじめに ＞	1
人吉市教育委員会の構成（令和3年11月 1 日現在）	
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	
1 教育委員会の活動及び運営状況	2
(1) 教育委員会の概要	2
教育委員会の目的	2
人吉市教育委員会委員（令和2年度の教育委員）	2
(2) 教育委員会の主な活動内容	2
教育委員会の活動状況	2
教育委員会会議	3
① 会議の開催状況（令和2年度実績）	
② 審議状況	
（ア）付議案件数	
（イ）会議に付された主な案件	
総合教育会議	3
① 会議の開催状況（令和2年度実績）	
② 審議状況	
③ 会議に付された主な案件	
教育委員の活動	3
① 教育委員の所管施設訪問状況	
（ア）学校訪問	
（イ）他の主な会議・行事等	
2 点検評価の目的	9
3 学識経験者の知見の活用	9
学識経験者	
4 点検評価の対象	9
人吉市教育委員会が点検及び評価を行った事業	
5 点検評価の結果	10
(1) 総合評価基準	10
(2) 点検評価シート（7事業）	
学校施設整備事業（高圧受電設備改修工事・いす式階段昇降機設置工事）	11
放課後・夏休みパワーアップ教室事業	13
学校給食事業	15
人吉市地域学校協働本部事業	17
スポーツコーディネーター業務委託（人吉市小学校社会体育）	19
史跡大村横穴群保存修理事業（補助）	21
移動図書館車事業	23
＜ 教育方針 ＞	25

<はじめに>

人吉市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、令和2年度事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

人吉市教育委員会

人吉市教育委員会の構成

(令和3年11月1日現在)

教育長	志 波 典 明
委員(教育長職務代理者)	西 口 詳 一 郎
委員	永 田 ミ キ
委員	加 賀 邦 保
委員	岡 本 麻 美

地方教育行政の組織及び運営に関する法律《抜粋》 (教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会の活動及び運営状況

(1) 教育委員会の概要

〈教育委員会の目的〉

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会の基本理念として、地方公共団体における教育行政は、教育基本法の主旨にのっとり、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、国との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行われなければならないとなっています。

本市においては、人吉市総合計画を上位計画として、人吉市教育振興基本計画に基づいた教育目標の達成に向けて、教育委員会委員及び事務局を中心に高い使命感を持ちながら市民の意向を反映した責任ある教育行政が実現できるように努めています。

人吉市教育委員会委員（令和2年度の教育委員）

役職名	氏名	就任	任期満了
教育長	末次 美代	平成27年7月1日 平成30年7月1日再任	令和3年6月30日
委員 (教育長職務代理者)	西口 詳一郎	平成26年4月10日 平成30年4月10日再任	令和4年4月9日
委員	永田 ミキ	平成28年10月1日 令和3年1月1日再任	令和6年12月31日
委員	長船 法文	平成28年10月1日 平成29年10月1日再任	令和3年9月30日
委員	加賀 邦保	令和元年10月1日	令和3年6月30日 (前委員の残任期間)

(2) 教育委員会の主な活動内容

〈教育委員会の活動状況〉

教育委員会の活動としては、教育長、教育委員4名で、小学校6校、中学校3校、計9校の学校参観を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは異なり、時間を短縮して授業参観のみを行う形となりましたが、引き続き教育現場の声を活かした教育行政を推進していきます。

教育委員会の運営としては、教育委員会会議を年13回開催し、審議事項41件、承認・協議等17件について審議・協議を行い、今後取り組むべき事業の方向性を決定しました。更に、「広報ひとよし」を利用し、定例の教育委員会等への傍聴の呼びかけを行い、開かれた教育委員会を目指しています。

〈教育委員会会議〉

① 会議の開催状況（令和2年度実績）

会 議	開催数	傍聴者数
定例会	11回	6人
臨時会	2回	0人

② 審議状況

（ア）付議案件数

議 案	41件
承認・協議等	17件

（イ）会議に付された主な案件

- ・ 人事案件について
- ・ 規則・要項の制定及び改正について
- ・ 一般会計予算について
- ・ 人吉市学校運営協議会委員等の任命について
- ・ 教育委員会の点検及び評価について

〈総合教育会議〉

① 会議の開催状況（令和元年度実績）

会 議	開催数	開催月
総合教育会議	1回	3月

② 審議状況

協議事項	教育委員出席状況
1件	4名

③ 会議に付された案件

- ・ 第3次人吉市教育振興基本計画（案）について

〈教育委員の活動〉

① 教育委員の所管施設訪問状況

（ア）学校参観

区 分	対 象	期 日	教育委員出席状況
小学校訪問	6校	令和2年 9月～ 令和2年11月	延べ 24人
中学校訪問	3校		延べ 12人

(イ) 他の主な会議・行事等

	会議・行事名	期 日	教育長 教育委員 出席状況
1	新規採用教職員宣誓式	令和2年4月2日	1名
2	市内校長会議	令和2年4月22日	1名
3	臨時教育長会議	令和2年4月28日	1名
4	臨時市内校長会議	令和2年4月28日	1名
5	保育園長等と市内小学校長合同会議	令和2年4月28日	1名
6	臨時教育長会議	令和2年5月8日	1名
7	臨時教育長会議	令和2年5月14日	1名
8	第1回人吉市校区公民館長連絡協議会	令和2年5月19日	1名
9	犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第1回）	令和2年5月19日	1名
10	人吉球磨総合美展運営委員会（第1回）	令和2年5月19日	1名
11	定例教育長会議	令和2年5月20日	1名
12	市内校長会議	令和2年5月26日	1名
13	教科書採択協議会	令和2年5月26日	1名
14	令和2年度NPO法人人吉市体育協会通常総会	令和2年5月28日	1名
15	放課後パワーアップ教室開講式	令和2年6月3日	5名
16	租税教育推進協議会	令和2年6月12日	1名
17	人吉市立教育研究所 学力向上部会	令和2年6月12日	1名
18	租税教育推進協議会	令和2年6月15日	1名
19	教科書研究委員会	令和2年6月16日	1名
20	人吉市小学校社会体育第1回運営委員会	令和2年6月17日	1名

	会議・行事名	期 日	教育長 教育委員 出席状況
21	臨時教育長会議	令和2年6月18日	1名
22	特別支援連携協議会	令和2年6月18日	1名
23	第1回人吉市地域学校協働本部会議	令和2年6月22日	1名
24	学校運営協議会（第一中）	令和2年6月26日	1名
25	ロアッソ熊本ジュニアユース人吉結団式	令和2年6月28日	1名
26	臨時市内校長会議	令和2年6月29日	1名
27	第1回人吉市社会教育委員会（公民館運営審議会）	令和2年6月30日	1名
28	人吉市立教育研究所 英語教育部会	令和2年6月30日	1名
29	わくわくスタディミーティング事業会議	令和2年7月1日	1名
30	人吉市立教育研究所 情報教育部会	令和2年7月2日	1名
31	市内校長会議	令和2年7月7日	1名
32	教科書研究委員会	令和2年7月7日	1名
33	定例教育長会議	令和2年7月8日	1名
34	学校給食食物アレルギー対応委員会	令和2年7月13日	1名
35	学警連	令和2年7月14日	1名
36	臨時教育長会議	令和2年7月16日	1名
37	臨時市内校長会議	令和2年7月16日	1名
38	教科書研究委員会	令和2年7月27日	1名
39	教科書研究委員会	令和2年7月28日	1名
40	学校運営協議会（西瀬小）	令和2年7月28日	1名

	会議・行事名	期 日	教育長 教育委員 出席状況
41	いじめ問題対策連絡協議会	令和2年8月4日	1名
42	教科書採択協議会	令和2年8月5日	1名
43	初任者研修（市内教員）	令和2年8月20日	1名
44	市内校長会議	令和2年8月31日	1名
45	就学時健診事務協議会	令和2年9月4日	1名
46	臨時市内校長会議	令和2年9月4日	1名
47	定例教育長会議	令和2年9月11日	1名
48	人吉市教育支援委員会	令和2年9月11日	1名
49	市内中学校体育祭	令和2年9月13日	1名
50	学校運営協議会（第二中）	令和2年9月18日	1名
51	運動会（東間小）	令和2年9月20日	1名
52	学校参観（大畑小、第三中、第二中）	令和2年9月29日	5名
53	市内校長会議	令和2年10月8日	1名
54	犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第2回）	令和2年10月8日	2名
55	中体連駅伝大会	令和2年10月13日	1名
56	就学時健診（大畑小）	令和2年10月14日	1名
57	就学時健診（中原小）	令和2年10月16日	1名
58	就学時健診（人吉東小）	令和2年10月19日	1名
59	就学時健診（人吉西小）	令和2年10月23日	1名
60	学校参観（人吉東小、中原小）	令和2年10月26日	5名

	会議・行事名	期 日	教育長 教育委員 出席状況
61	市内教頭・主幹教諭会議	令和2年10月29日	1名
62	川上哲治生誕100年記念事業 ジャイアンツアカデミーわくわく野球教室in人吉	令和2年11月1日	1名
63	学校参観（東間小、西瀬小）	令和2年11月9日	5名
64	教育長・校長合同会議	令和2年11月10日	1名
65	就学時健診（西瀬小）	令和2年11月11日	1名
66	第2回人吉市校区公民館長連絡協議会	令和2年11月12日	1名
67	犬童球溪顕彰音楽祭「碑前祭」	令和2年11月12日	3名
68	就学時健診（東間小）	令和2年11月17日	1名
69	第2回人吉市地域学校協働本部会議	令和2年11月17日	1名
70	市内校長会議	令和2年11月18日	1名
71	学校参観（人吉西小、第一中）	令和2年11月19日	5名
72	租税教育入賞者表彰（西瀬小）	令和2年11月27日	1名
73	第2回人吉市社会教育委員会（公民館運営審議会）	令和2年11月27日	1名
74	租税教育入賞者表彰（第三中）	令和2年12月10日	1名
75	人吉市学校安全衛生委員会	令和2年12月17日	1名
76	市内校長会議	令和2年12月21日	1名
77	人吉球磨総合美展運営委員会（第2回）	令和2年12月24日	1名
78	犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第3回）	令和3年1月12日	1名
79	教科書採択協議会	令和3年1月18日	1名
80	定例教育長会議	令和3年1月18日	1名

	会議・行事名	期 日	教育長 教育委員 出席状況
81	市内校長会議	令和3年1月20日	1名
82	いじめ問題対策連絡協議会	令和3年2月10日	1名
83	市内校長会議	令和3年2月12日	1名
84	第38回熊日郡市対抗女子駅伝大会・第47回郡市対抗熊日駅伝大会人吉市選手団結式	令和3年2月16日	1名
85	市内教頭・主幹教諭会議	令和3年2月17日	1名
86	第3回人吉市校区公民館長連絡協議会	令和3年2月18日	1名
87	第3回人吉市社会教育委員会（公民館運営審議会）	令和3年2月24日	1名
88	人吉市体育施設事故防止対策審議会	令和3年2月25日	1名
89	市内校長会議	令和3年3月4日	1名
90	人吉市学校安全衛生委員会	令和3年3月4日	1名
91	第2回人吉市学校給食センター運営委員会総会	令和3年3月4日	1名
92	中学校卒業式	令和3年3月14日	2名
93	臨時市内校長会議	令和3年3月18日	1名
94	人吉市小学校社会体育第2回運営委員会	令和3年3月19日	1名
95	人吉市草木山川学校（春版）	令和3年3月20日	2名
96	小学校卒業式	令和3年3月23日	5名
97	人吉市学校給食センター納入業者指定書交付式	令和3年3月29日	1名

2 点検評価の目的

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、平成20年4月から施行されました。法改正の目的「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして「教育委員会の点検評価」が位置づけられています。

教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 学識経験者の知見の活用

点検評価の客観性を確保するために「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」を図ることとなっています。

広い観点からの知見の活用を図るため、担当課が行った点検評価の結果について3名の学識経験者から様々な御意見、御助言をいただきました。

学識経験者

荒毛 正浩（あらけ まさひろ）氏 元市役所職員
国武 美幸（くにたけ みゆき）氏 元小中学校教諭
隈部 圭二（くまべ けいじ）氏 市PTA連絡協議会推薦

4 点検評価の対象

令和3年度に点検評価を行った事業は、人吉市教育方針に基づき令和2年度に実施した主要な7事業としました。

人吉市教育委員会が点検及び評価を行った事業

課 名	事 業 項 目
教育総務課	学校施設整備事業 (高圧受電設備改修工事・いす式階段昇降機設置工事)
学校教育課	放課後・夏休みパワーアップ教室事業
	学校給食事業
社会教育課	人吉市地域学校協働本部事業
	スポーツコーディネーター業務委託（人吉市小学校社会体育）
歴史文化課	史跡大村横穴群保存修理事業（補助）
図 書 館	移動図書館車事業

5 点検評価の結果

教育委員会においては、学識経験者の知見の活用を図りながら事業評価を行い、今後の方向性を示す総合評価をA～Dで表し、最終的な点検評価として意見をまとめました。

(1) 総合評価基準

区 分	評価結果に基づく改善等の内容	内容の詳細
A	継続して管理・運営を進めることが適当	特に問題もなく進捗状況も順調で、計画的に事業を進めるもの。
B	事業の進め方を改善検討し、事業は継続	進捗状況は順調であり、事業内容にも意義があるため継続が望ましいと判断できるが、事業の進め方等に改善の余地があるもの。
C	事業規模・内容、または実施主体の見直しを検討	進捗状況も芳しくなく、結果もあまり期待できないが、事業規模・内容・実施主体に改善の余地があるもの。
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	進捗状況が大幅に遅れており、事業そのものに行政が関与する必要がなく休・廃止が望ましいもの。

(2) 点検評価シート（7事業）

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	学校施設整備事業（高圧受電設備改修工事・いす式階段昇降機設置工事）				
2	担当課名	教育総務課		担当者	丸尾 亜紀子	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード
			2	一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり		9
						学校教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	・市内各小学校の児童・生徒、教職員及び学校施設を利用する市民				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	・高圧受電設備は、現在、点検業務を九州電気保安協会に委託しているが、設備の経年劣化により改修の必要性がある旨を指摘されていたことから、今回、波及事故の発生を防ぐため設備改修を行うもの ・東間小学校において、肢体不自由児の進級に伴い、いす式階段昇降機（1階から2階、2階から3階）を設置するもの				
6	事業の概要	・九州電気保安協会からの報告及び設備の経年劣化状況から優先順位を付け、高圧受電設備の更新工事を行うもの ・階段の上り下りが困難な肢体不自由児の進級に伴い、いす式階段昇降機の設置工事を行うもの				
7	コスト内訳	年度	令和元年度（実績）		令和2年度（実績）	
		合計	0千円		21,269千円	
		財① 国庫補助金			14,933	
		源② 県補助金				
		内③ 起債			5,700	
		訳④ その他				
		⑤ 一般財源	0		636	

事業の成果と課題						
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	・令和2年7月豪雨災害後、市内各小・中学校の屋内運動場に避難所開設に伴い、空調設備（国事業）が設置された。この開設において、教室での空調機や電子黒板等の使用と並行し災害避難所での空調機等の使用も行う必要があったことから高圧受電設備の更新工事を行ったところ、今回の工事により電力の安定的な使用が可能となった。 令和2年度実施：人吉西小学校、大畑小学校 令和3年度実施予定：第二中学校 ・東間小学校において「いす式階段昇降機」が設置されたことにより、肢体不自由児の階間の移動がスムーズに行われるようになった。				
9	今後の課題や改善等	・今後の設備の経年劣化状況を勘案し、計画的に高圧受電設備の更新工事を行っていく必要がある。				

事業の評価と今後の事業計画

	今後の事業の方向性	総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
		A	令和2年度～3年度で本事業は完了予定であるが、初年度において概ね計画通りに進捗したことからAを選択した。 今回の学校施設整備事業（高圧受電設備改修工事・いす式階段昇降機設置工事）は、学校施設における電力の安定的な使用と波及事故防止とともに、今後の災害避難所を兼ねた学校施設管理において大きな意義があったものと思われる。 今後も、時代のニーズに適した教育環境整備を進めていく必要がある。

学識経験者の意見

10	○障がいのある子ども達への支援に感謝する。 ○周りの者が思いはかることのできない苦悩を抱えた保護者の希望となったと思う。 ○人吉で子育てをしてよかったと思っていただけるような事業を今後も続けていきたい。 ○本事業のうち、高圧受電設備改修工事は昨年の豪雨災害による市内小中学校体育館の避難所利用に伴い必要な整備事業であったことと考える。 ○東間小学校において実施されたいす式階段昇降機設置工事は、肢体不自由児童への対応として極めて必要な事業であったと思うが、今後、避難所としての利用を考えると他の学校においても設置していく必要があると思う。 ○財政的に極めて厳しいと思うが、多目的トイレの設置やバリアフリー化への検討も今後必要である	11	○国事業として各学校の体育館に空調設備が整備されたことは有り難いことである。 今後の活動に大いに生かしてほしい。 ○今年はパラリンピックがあり、東京大会は日本時間で開催されたので、毎日テレビ観戦することができた。クラス分けやルールについても初めて知ることも多く、学びの場となった。共生社会がより一層進むように、ユニバーサルデザインに基づいた施設整備が拡充されることを真に望む。
----	---	----	---

教育委員会の評価

	総合評価	
	A	有事の際に避難所としての役目を果たす学校施設の設備の充実は、重要な事業である。今後は長寿命化計画のもと、高圧受電設備改修工事やバリアフリー化等の安心安全な施設の整備を継続して進めることが必要なため「A」を選択した。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	放課後・夏休みパワーアップ教室事業				
2	担当課名	学校教育課		担当者	鵜口光和	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	コード	名称
			2	一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり	9	学校教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市内小学校の児童				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	・児童の基礎学力の定着と向上 ・子どもの貧困対策				
6	事業の概要	【放課後パワーアップ教室】 小学校4・5年生を対象として、毎週水曜日の放課後1時間を利用し、国語・算数の前学年で学習した内容を中心に学習支援を行う。 【夏休みパワーアップ教室】 小学校3年生を対象として、夏休みの7日間（土日除く）、午前中の2時間を利用し、国語・算数の前学年で学習した内容を中心に学習支援を行う。				
7	コスト内訳	年度	令和元年度（実績）		令和2年度（実績）	
		合計	4,796千円		4,268千円	
		財源① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他	4,000		4,000	
		⑤ 一般財源	796		268	
					805	

事業の成果と課題						
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	放課後パワーアップ教室は192人（R元：201人）が受講し、47人の学習サポーターが学習支援を行い、児童の基礎学力の定着が図られた。 夏休みパワーアップ教室は、令和2年7月豪雨災害により、事業実施を見送った。				
9	今後の課題や改善等	・学習サポーターの確保。 ・長年継続している事業であり、事業内容の見直しを含め、学習サポーターの確保対策について検討する必要がある。				

事業の評価と今後の事業計画

	今後の事業の方向性	総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
10		B	・本市児童の基礎学力の定着と向上を図り、学習意欲を高めるためのこの事業は保護者からの期待も大きい。しかしながら、その成果を数値に表すことが困難。また、毎年度、学習サポーターの確保に苦慮している。

学識経験者の意見

11	○実際に、子ども達の学習への意欲向上や関係改善等を耳にしている。 ○この取組への熱意こそが、親がなかなか与える事の出来ない大事なものだと思う。 ○子ども達にとってはいい成長の機会なので、今後、指導者も含め参加者を増やしてほしい。 ○児童の学力向上、とりわけ家庭の事情等で学習塾に行くことができない児童にとっては、基礎学力の向上に大きく寄与するものとして評価できることから、今後とも継続してほしい。 ○昨年の豪雨災害により、夏休みパワーアップ教室が実施できなかったことは残念だった。 ○課題となっている学習サポーターの確保については、引き続き広報ひとよしや市のホームページ、報道機関等を活用して本事業の周知及び登録募集の呼びかけを定期的に行うことが必要と思われる。また、社会教育課と連携して学校支援ボランティア登録者に対しても本事業への周知や参加を依頼することにより、新規登録者の拡大を図ることも検討してほしい。 ○新型コロナウイルス感染拡大の状況においての対応は、今後抜本的な見直しが必要と思うが、IT機器を駆使したオンライン授業など検討すべきと考える。 ○学習内容理解につまずきの出やすい学年に焦点を当て実施できたことは良かった。しかしながら、児童の基礎学力の定着と向上、子どもの貧困対策という目的が達成できたのか検証すべきではないか。 ○昨年同様、参加児童の学習状況や学習サポーターの声さらには児童の担任の声など、どのような点について効果があったのか、課題はどのような点なのかを把握できれば、事業内容について評価しやすいと思う。 ○また、学習サポーターの確保については、学校差もある。効果的な呼びかけができていない学校の対策について共有したり、授業参観後に各学級でサポーター体験会を開いたり、地域学校協働本部事業による呼びかけをしてみたりしてはどうだろう。
----	--

教育委員会の評価

	総合評価	
12	B	児童の基礎学力の定着や学習意欲の向上の観点から、継続が望ましい事業施ある。学習サポーターの確保が喫緊の課題であるため、児童の保護者や祖父母等の家族の協力、地元高校性及び専門学校生の協力を引き続き仰いだり、学校支援ボランティアへの協力依頼や広報での周知など改善の余地があることから「B」を選択した。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	学校給食事業				
2	担当課名	学校教育課（学校給食センター）		担当者	赤池 健志郎	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	コード	名称
			2	一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり	9	学校教育の充実

事業の内容					
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕		市内小・中学校の児童・生徒及び教職員		
	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕		児童生徒の栄養摂取の充足を図るとともに、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けさせ、将来を担う子どもたちの健全な「体」と「心」を育てる上で、重要な役割を果たすものとして実施している。		
	事業の概要		安全安心、衛生的でおいしい給食を継続的に供給する。		
6					
7	コスト内訳	年度	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込）
		合 計	170,015千円	169,748千円	169,617千円
		財① 国庫補助金		664	
		源② 県補助金			
		内③ 起 債	2,900	7,500	7,500
		訳④ その他	580	601	601
		⑤ 一般財源	166,535	160,983	161,516

事業の成果と課題						
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	・給食対象者 小学校（1,831名）、中学校（916名）※教職員含む ・給食実施日数 小学校174日、中学校170日 ・職員数 事務員3名 調理員26名（民間委託） 配送員4名（民間委託） 栄養教諭2名（熊本県所属） ※アレルギー対応専属の非常勤職員1名は令和2年度から削減 ・給食単価 （小学校）241円/1食 ・（中学校）282円/1食 ・月額（小学校）3,600円 （中学校）4,200円 ※但し、4,5月の徴収はなし。 ・給食費助成金 （小学校）59円/1食 （中学校）61円/1食 ・食物アレルギー対応（対象品目：鶏卵、牛乳、乳製品、エビ、カニ、イカ、タコ）（除去食・代替食）提供対象者数 21名 ■毎日バランスのとれた栄養価の高い給食の提供は勿論のこと、地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れたりなど、安定的・魅力的な学校給食の提供が来ている。また、アレルギー対応を実施することで、対象者に対して安全な給食の提供が来れた。 ■子育て世代の経済的支援として、給食費の一部助成を実施し、一人当たり年間約11,000円が軽減された。				
9	今後の課題や改善等	・施設設備の今後の経年劣化状況を勘案し、個別施設計画（長寿命化計画）に基づいた計画的な更新を図っていく必要がある。 ・給食費の滞納対策を図りながら、公会計化移行の検討も今後進めていく必要がある。				

事業の評価と今後の事業計画

	今後の事業の方向性	総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
		A	成長期にある児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で、給食の提供は不可欠である。
10			

学識経験者の意見

11	○公会計化への移行は良いと思う。 ○地産地消の取組も他県ではまだまだ遅れているので、地元愛を育む面でも今後も続けてほしい。 ○衛生面が最重要課題なので、設備保全は的確に行ってほしい。 ○食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることなど、学校給食における食育の推進は、極めて重要な事業と位置付け、食育の対象者を子ども達だけでなく、その保護者を含めた取組が必要と考える。そのためには、PTAでの活動の中に食育への取組を積極的に取り入れてほしい。 ○保健センターが主管する人吉市健康増進・食育推進計画の事業とも連携を密にし、事業のさらなる充実を希望するものである。 ○学校給食を通じて、地域の食や農業への理解を深めていくことも重要であり、経済部など関係部局とも連携した取組を継続してほしい。 ○今年、農水省が発表した「みどりの食料システム戦略」の中に給食のオーガニック化が掲げられており、今後は安全安心な地元の有機農産物の利用を検討してほしい。 ○特に発がん性が指摘されているグリホサートの残留が心配される外国産小麦粉使用のパンを利用している場合は、国産小麦粉パンへの切り替えを検討してほしい。 ○学校給食事業は極めて重要な事業にもかかわらず、給食センター職員の人員が今年の4月から1名減になっており、今後の円滑な給食センター運営に重大な支障をきたすことが心配されることから適切な人員配置が必要と考えられる。 ○コロナ禍及び豪雨災害による学校の休校措置をはじめ、食材の確保や安全面など様々な対応に苦慮されたことと思う。学校給食の実施については感謝する。 ○食物アレルギー児童へも除去食として対応されたり、給食費一部助成を実施されたりするなど現代的課題にしっかりと対応されていると思う。	

教育委員会の評価

	総合評価	
	A	バランスのとれた栄養価の高い給食の提供は勿論のこと、食に対する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けさせることなど、食育の推進は重要な事業であることから「A」を選択した。
12		

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	人吉市地域学校協働本部事業				
2	担当課名	社会教育課		担当者	上野 政信	
3	総合計画における政策体系	政策	コード 2	名称 一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり	施策	コード 8 社会教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	人吉市内小中学校の児童・生徒				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	これまで各中学校区で取り組んできた独自の地域学校協働活動の成果を基盤とし、学校と地域が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちを育成する学校支援活動の更なる充実・活性化を図るもの。				
6	事業の概要	【組織構成】 市内全ての小中学校で、地域学校協働活動を推進するために、本市における本部の下に、中学校区毎の支部を設置する構成としている。この各支部に地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を1人ずつ配置し、各小中学校のコミュニティスクールにおける学校運営協議会委員とすることで、組織の連携と円滑な運営を図る。 【学校支援活動】 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）が、学校と地域の橋渡し役となり、学校のニーズや支援要請に応じ、学校支援ボランティアの募集及び人員確保とボランティア派遣を行う。				
7	コスト内訳	年度	令和元年度（実績）		令和2年度（実績）	令和3年度（見込）
		合 計	4,812千円		5,509千円	6,185千円
		財 ① 国庫補助金				
		源 ② 県補助金	360		123	126
		内 ③ 起 債				
		訳 ④ その他				
		⑤ 一般財源	4,452		5,386	6,059

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	■学校支援ボランティア登録者数 453人（前年度比：30人増） 学校支援活動実績（合計：支援回数 402回、延べ支援者数 1,520人） （前年度：支援回数 295回、延べ支援者数 1,579人） 【一中校区】支援回数 108回、延べ支援者数 341人 【二中校区】支援回数 277回、延べ支援者数 1,086人 【三中校区】支援回数 17回、延べ支援者数 93人 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症及び豪雨災害の影響により、普段の生活や学校生活が一変し、当初計画どおりの支援活動が行えなかった。しかしながら、災害発生後、ボランティアの皆様のお力添えをいただき、登下校見守り支援をはじめ、徐々に学校支援活動を再開し、昨年度を上回る支援回数となった。
9	今後の課題や改善等	学校支援ボランティアの登録者数は、現在453人であるが、二中校区においては、活動13年目を迎えており、近年、高齢等の理由により辞退者が出てきている。また、実動実績がない方が多数存在し、このことは、ボランティアが登録している支援内容と学校からの支援要請内容が一致しないケースが要因と考えられる。 今後、ボランティアの継続意向調査を行い、地域住民の知識と経験を活かした学校支援活動の展開ができる仕組みづくりと合わせて、更なるボランティア登録増加に努めなければならない。

事業の評価と今後の事業計画

		総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
10	今後の事業の方向性	B	今年度は、新型コロナウイルス感染症及び豪雨災害の影響があったにもかかわらず、学校支援活動回数を見ると充実した事業内容に見える。しかし、今後も持続可能な事業とするためには、地域学校協働本部の体制の見直しや新たな事業展開の検討、更なる学校支援ボランティアの確保など、本事業全般において見直す必要がある。

学識経験者の意見

11	○この事業による子どもたちの環境の向上に感謝する。 ○自分も含め、保護者の皆様も、このような活動をよく知らないが故のボランティア不足とも考えられ、PTAとしても周知の活動に力を入れ、各団体の参画を広く募っていききたい。（各会議でもこのことを取り上げていきたい。） ○本事業は、学校の教育環境の向上や子どもたちの人材育成、地域とのつながりを深めていく上で極めて重要な事業と考える。 ○令和元年度から二中校区以外の小中学校において本事業が実施されているが、校区によってばらつきはあるものの関係者の理解と協力により、前年度と比べて支援回数が100回以上増加し、素晴らしい実績が上がっていると思われる。 ○今後は、豪雨災害の復旧やコロナ禍の中、厳しい状況ではあるが、町内会会長への更なる周知や公民館活動との連携をはじめ学校支援ボランティア登録者の拡大に向けた取り組みが必要であると思われる。 ○市内中学校の3地域にコーディネーターを配置したことでコロナ禍及び豪雨災害の影響下にあっても、昨年度を超える支援の広がりがみられたことは大変良かった。 ○人吉市における本事業と各学校の学校運営協議会の関係など全体構想を今一度整理してわかりやすく伝えてほしい。
----	--

教育委員会の評価

総合評価	
12	B 地域住民の知識と経験を活かした学校支援ボランティア活動により、子どもたちの育成、学校の教育環境の向上が図られていることに感謝の意を表したい。 今後は、子どもが地域に出向いてつながりを深める施策、子どもの力を地域で活かせる施策を検討する必要があることから「B」を選択した。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	スポーツコーディネーター業務委託(人吉市小学校社会体育)				
2	担当課名	社会教育課		担当者	樺木 智成	
3	総合計画における政策体系	政策	コード 2	名称 一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり	施策	コード 12 名称 スポーツの振興

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市内小学校4～6年生の参加児童及びその保護者				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	小学校運動部活動の廃止（平成31年4月）に伴い、児童の運動習慣の二極化の防止及び児童の生涯スポーツの入口として運動機会を創出し、かつ児童の身体機能向上並びに健康増進を図るため、スポーツコーディネーターを配置し、社会体育の実施計画及び運動メニューの作成等を行い円滑な事業運営を行う。				
6	事業の概要	市内小学校6校の体育館等を使用し、学校単位の社会体育活動（以下「本活動」という。）を行い、参加児童に運動機会の提供をする。活動内容は、特定の競技種目に特化したものではなく、レクリエーションスポーツその他総合的な運動を実施。 運動指導・運動プログラム監修をしてもらうため、スポーツコーディネーター業務をNPO法人人吉市体育協会へ委託。また、同協会から指導者を派遣してもらっている。 本活動の運営方針の決定については、人吉市小学校社会体育運営委員会（委員17名構成：学校関係者6名、学校PTA関係者6名、校区公民館長連絡協議会1名、スポーツ推進委員協議会1名、教育長1名、教育部長1名、市スポーツコーディネーター1名）において、協議・検討を行っている。				
7	コスト内訳	年度	令和元年度（実績）		令和2年度（実績）	令和3年度（見込）
		合計	2,106千円		2,059千円	2,061千円
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起債				
		④ その他				
		⑤ 一般財源	2,106		2,059	2,061

事業の成果と課題						
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	市内6小学校それぞれ13～14回実施（計80回実施、延べ参加人数923人）し、市内対象児童（4～6年）898人のうち、78人（8.68％：目標20％）の児童及びサポーターとして3人の保護者の参加申込があった。 大きな事故・怪我なく実施できた。指導者から見て参加児童の運動能力向上が確認できており、目的である「児童の身体能力の向上及び健康増進」に大きく寄与したものと考えている。また、事業実施後の参加児童アンケートにおいて、活動の満足度について「とても満足している（65％）」「まあ満足している（31％）」と回答した児童の割合が96％であったことから、楽しく・充実した活動であったと判断している。				
9	今後の課題や改善等	本活動については、受益者負担の原則からスポーツコーディネーター業務以外の必要経費については、会費収入で運営しているため、持続的な事業継続のために会員数確保が大きな課題である。 必要経費（傷害保険料や指導者謝礼等）確保のために、加入率20％を目指していたが、「新型コロナウイルス感染症」や「令和2年7月豪雨災害」の影響などもあり、活動実施回数減や被災の影響なども重なり、参加児童が増える環境になかった。 会員増加を図るため予定していた体験型のPR活動（各学校PTA学年レクリエーションで体験教室を取り組んでもらう等）も中止となり、会員増につながらなかった。コロナ禍のため難しい面もあるが、PR活動に取り組みながら事業の啓発を進めていき加入率向上を図る必要がある。				

事業の評価と今後の事業計画			
	今後の事業の方向性	総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
10		B	アンケート結果から、参加した児童は楽しく活動ができており、本活動は多くの児童に運動する楽しさや喜びを実感できる環境を提供できており、児童の新しい運動機会の場としては有効であると感じている。 子どものうちから運動習慣を身に付けることは、運動能力の向上だけでなく、将来的な健康増進にもつながっていくことから、子どもの身体活動の重要性に関する保護者の意識を高め、参加率を向上させていく取り組みが必要である。 また、事業継続には人材確保も課題で、現委託先の人吉市体育協会以外で受託できる団体はなく、協会内においても将来的なスポーツコーディネーター及び指導者の確保などが必要となってくる。

学識経験者の意見

11	○社会体育活動も3年目を迎えた中、まともに活動できたのは初年度のみとなり、本来ならば次の段階への模索を行っているべき時期での今の停滞は頭が痛い。 ○事業の継続が危ぶまれているが、現況があまりにも特殊であることを踏まえ、今一度新たな展望を踏まえた継続のあり方を議論し、子ども達へ残したい事業の一つとして協力していきたい。 ○本事業は小学校の運動部活動の廃止に伴う学校単位の社会体育活動への取組であり、本市の子ども達の身体機能向上や健康増進を図る上で重要な事業と考える。 ○令和2年度においては、7月豪雨災害により、活動場所の体育館が避難所として利用されたことやコロナ禍の影響により、活動実施回数が計画より下回ったことは残念であった。 ○開催回数は前年度より少なかったものの、参加者のアンケートにおける感想では、おおむね良好な意見があり、内容的には評価できるので、今後とも参加者を拡大するために引き続き保護者への更なる周知が必要と思う。 ○コロナ禍で厳しい状況と思われるが、外部のあしきた青少年の家などからの専門スタッフの活用も今後、より一層取り組んでほしいと考える。 ○体力の維持向上の観点からは大変良い事業であると考えている。しかしながら参加児童数が少ない現状をみると、周知の場の確保が足りないのではないかと考える。全児童が体験する場を設けたり、学年PTAなどの場で保護者も一緒に体験したりするなど、魅力を伝える手立てが必要であると考えている。 ○本事業をきっかけとして児童の運動習慣がどのように形成されているのか検証が必要ではないかと考える。運動習慣の二極化が防止できたことの根拠となりうると考える。 ○総合型地域スポーツクラブ（カルバーリョラッソ）との連携によりスポーツ活動の活性化にもつながられるのではないかと考える。
----	---

教育委員会の評価

	総合評価	
12	B	本市の児童の身体能力の向上及び健康増進を図るうえで重要な事業である。 参加児童アンケートでは高い満足度を得ているため、内容は評価できると考える。しかし、加入率が低いことは、本事業の継続にも関わるため、加入率向上のための取組や加入していない理由の精査など必要と考えるため、「B」を選択した。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	史跡大村横穴群保存修理事業（補助）				
2	担当課名	歴史文化課		担当者	手柴 友美子	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	コード	名称
			2	一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり	11	歴史文化遺産の保存と活用

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市民及び来訪者				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	史跡の本質的価値を保護し次世代に継承しつつ、その価値が地域の誇りとして醸成されるような整備活用を目指す。				
6	事業の概要	平成6～16年度にかけて大村横穴群東群（人吉駅裏）の整備事業を実施し、施工箇所は安定していた。しかし、平成22年4月に未整備であった西群（民家、JR鉄道事業部付近）での崖面崩落が起り、今後の大規模崩落の危険性が高まったため、岩盤の安定化を図り、文化財の保存と安全な公開活用を目的とした整備を実施。 平成25年度から継続して西群一帯の安定対策工事を実施し、そのうちⅠ工区については、令和4年度を目途に施工完了し、事業内容を周知するための看板や整備報告書を刊行する予定。				
7	コスト内訳	年度		令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込）
		合 計		16,137千円	6,578千円	18,376千円
		財	① 国庫補助金	8,050	3,280	9,338
		源	② 県補助金	805		728
		内	③ 起 債	6,200	2,900	7,200
		訳	④ その他			
			⑤ 一般財源	1,082	398	1,110

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	西群のうち民家・畑に面した部分（延長約100m）をⅠ工区、更にその東側（延長約75m）をⅡ工区とし、令和2年度までに、Ⅰ工区のうち民家に面した崖面については施工を完了し、残るB2ゾーン（畑に面した部分）の施工に着手している。 工法は、アンカーピンやロックネット等による安定化対策工事である。
9	今後の課題や改善等	平成28年の熊本地震に伴う新庁舎建設の影響を受け、平成30年度は一時的に事業を休止したが、安全対策目的の観点から平成31年度より事業を再開した。 Ⅰ工区については令和4年度を目途に完了する予定であり、今後Ⅱ工区についても事業を継続させる必要がある。（本来Ⅱ工区を主として実施する目的で国、県の補助を受けて進めている事業であるため、Ⅱ工区の施工完了をもって事業の完了とみなされる。） 令和2年7月の豪雨災害を受け、市の財政状況はひっ迫しているが、効果的かつ、より経済性の高い工法を鋭意調査・検討しながら、事業の遂行に向けて努力していかなければならない。

事業の評価と今後の事業計画			
		総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
		A	大村横穴群は、古墳時代に造営されたと考えられる横穴で、肥後地域に特徴的な装飾を持つ横穴の南限域にあり、歴史的重要性が高い。市の財政状況は厳しい局面を迎えているが、早急にⅠ工区の工事を完了し、更にⅡ工区の事業着手に向けて努力したい。 この保存整備事業等を踏まえ、史跡大村横穴群を次世代へ確実に継承し、地域の誇りや心の拠り所となるような整備の在り方、地域振興などへの活用を促進する。
10	今後の事業の方向性		

学識経験者の意見

11	○国との折衝が大変かと思うが、重要な史跡の保存整備を大事にしていってほしい。 ○皆で楽しく集える公園になるよう応援していきたい。 ○同事業は、歴史的価値が極めて高い史跡を保存活用する事業であり、今後とも重要かつ必要な事業と考える。 ○JR人吉駅およびくまがわ鉄道と隣接していることから、現在は豪雨災害で利用されていないものの、復旧された際は郡市の観光資源としての位置付けも検討していただき、経済部と連携し、市民はもとより観光客の方々にも当史跡の認知度を高めてほしいと思う。 ○昨年の豪雨による被害は甚大で人吉城歴史館をはじめ文化財の復旧に尽力されたことと拝察する。まだまだ先は長いと思いますがどうかお身体に気をつけてお仕事に励んでいただきたい。 ○全国的に見ても貴重な古墳群である。市民が誇りに思える史跡として維持保存に努めていただきたい。
----	--

教育委員会の評価

		総合評価	
		A	史跡の本質的価値を保護し次世代に継承しつつ、その価値が地域の誇りとして醸成されるために重要な事業である。 復元の足跡を残し、後世に伝えていくために記録を十分に残し、次世代へ確実に継承していく必要があるため「A」を選択した。
12			

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：令和2年度事業)

事業名・担当部署						
1	事業名	移動図書館車事業				
2	担当課名	図書館		担当者	立山 健介	
3	総合計画における政策体系	政策	コード 2	名称 一人ひとりが学び続ける、豊かな人生づくり	施策	コード 8 社会教育の充実

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	幼児から高齢者に至るまでの幅広い市民				
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	移動図書館車の巡回を行うことで、園児・児童・生徒たちが本に親しみ触れ合う機会を創出するとともに、子どもの読書活動推進を図る。 図書館を利用できない、利用しづらい社会人や高齢者に対し、移動図書館車を派遣し、生涯学習を支援する。				
6	事業の概要	令和元年度に導入した新移動図書館車「さわやか号」に約1500冊の書籍を積載し、全26か所の施設を概ね3週間に1回の割合で巡回している。施設の内訳は、幼稚園・保育園・認定こども園16、市内全小中学校9、希望ヶ丘学園など1である。1か所での滞在時間は40分～1時間で、この時間内に、貸出資料の展示及び返却・貸出業務を行っている。 なお、新移動図書館車にはリフト機能が追加されており、バリアフリー化されている。				
7	コスト内訳	年度	令和元年度(実績)		令和2年度(実績)	令和3年度(見込)
		合計	12,703千円		1,849千円	2,293千円
		財① 国庫補助金				
		源② 県補助金				
		内③ 起債				
		訳④ その他	10,000千円			
		⑤ 一般財源	2,703千円		1,849千円	2,293千円

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	新型コロナウイルス感染拡大防止措置及び令和2年7月豪雨災害による臨時休館で巡回できなかった日が多くあるなか、全26か所で、合計207回実施し、19,675冊（1回あたり平均95冊）の利用があった。（令和元年度は329回実施、26,847冊、平均82冊） 幼稚園・保育園・認定子ども園・小中学校への巡回は、子どもたちが、自施設では所蔵していない多種多様な図書に触れる機会を提供しており、子どもたちの読書環境や読書意欲を向上させることができた。 社会人・高齢者・障がい者向けに、希望ヶ丘学園・延寿荘・うぐいすを11回巡回し、計595冊（1回あたり平均54冊）の利用があった。
9	今後の課題や改善等	図書館と園や学校との連携のほとんどが移動図書館車の巡回であることから、滞在時間を延ばしたり、貸出返却作業の効率化などによりコミュニケーションの時間を増やし、園や学校との連携を更に深めていくことが求められる。 移動図書館専用の書庫が狭いため、所蔵できる図書の数が限られている。図書資料も古く修理された図書が多いため、利用されていない本の整理や除籍を検討し、新しい書籍を購入していく必要がある。

事業の評価と今後の事業計画			
		総合評価	左の「総合評価区分」を選択した理由
10	今後の事業の方向性	A	子ども読書活動を推進する面で、幼稚園・保育園・認定こども園を巡回し、幼少期から本と触れ合い、親しめる環境を創出する方法として、温かみのある絵が描かれた移動図書館車の存在感やその空間が果たす役割は大きい。また、学校図書との連携やその機能の補完といった面でも移動図書館車の運用は必要不可欠である。 併せて令和3年度から生涯学習を支援する機能として移動図書館車の運用改善を図るとともに、令和2年7月豪雨被災者支援を目的として仮設避難住宅を巡回することとした。
学識経験者の意見			
11			○子ども達は、学校での図書委員活動を楽しんでいるようである。今後、高齢の方にも拡充されるところなので、大変な事業とは思いますが頑張っていただきたい。 ○読書は自己成長、自己啓発に最も有意義な手段であり、幼児から高齢者に至る移動図書館の果たす役割は極めて大きいと思える。 ○去年は、甚大な豪雨災害やコロナ禍の影響により、巡回回数が減少したことは残念だったが、全26か所で約2万冊の利用があった実績は素晴らしいと思う。 ○今後の課題の中にもあげられていた通り、古い書籍や利用度の低い書籍を整理し、できる限り、最新の書籍を整備されることが必要と思われる。 ○コロナ禍で学校もIT機器によるオンライン化が進んできているので、今後は電子書籍への取組も検討していく必要があると考える。 ○コロナ禍及び豪雨災害の影響下にある中で市図書館利用は難しかった。移動図書館の活躍により、児童生徒のみならず社会福祉施設の入所者において読書活動を維持できたことは、大変ありがたいことであったと思う。 ○蔵書の刷新が日常化され、さらに魅力ある移動図書館となるよう期待する。

教育委員会の評価		
	総合評価	
12	A	図書館を利用できない、利用しづらい幼児から高齢者に至るまで、生涯学習の支援や活字離れ阻止等、移動図書館の果たす役割は極めて大きいものである。 仮設住宅や施設等への巡回訪問により、本と関われる場を提供することは心の安らぎを提供できることにも繋がるので、「移動する図書館」として更なる充実を図るべき事業であることから「A」を選択した。

< 教育方針 >

《 基 本 理 念 》

本市は、「市民が様々な可能性を追求することができ、かつ美しい自然や歴史を未来に継承しながら、活気と賑わいに満ちた健康で笑顔で暮らせるまちづくり」を進めています。本市教育は、このまちづくりの理念のもと、市民一人一人が自ら学ぶ意欲を養うことで、将来の夢や希望に向かって自らの可能性を高め、人間力（人として生きる力）を育み、心身ともに健康で豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指します。

このため、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携協力しながら、社会状況の変化に対応する教育の向上に取り組み、豊かな人間性と創造力・国際性を備えた人材の育成や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。



< 教 育 目 標 >

I 生きがいを持って活躍できる生涯学習とスポーツ環境の整備

市民が、生涯にわたって自発的に学び、芸術・文化・スポーツなどに親しむことを通して、生きがいを持って活躍できる生涯学習・スポーツ環境の整備を推進します。

II 家庭・地域の教育力の向上と協働の推進

家庭や地域の教育力の向上に向けた取組を推進するとともに、学校、家庭、地域社会が協働・連携して子どもを育てる環境づくりを推進します。

III 「知・徳・体」の調和のとれた生きる力を育む学校教育の推進

子ども一人一人の個性を尊重してその能力を伸ばし、個人として、社会の一員として「知・徳・体」の調和のとれた生きる力を育む学校教育を推進します。

IV 人吉市民としての誇り、郷土愛を育む歴史・文化環境の整備

豊かな自然とそれを背景に培われた歴史と文化を守り、活用に努めるとともに、人吉市民としての誇り、郷土愛を育む環境整備を推進します。